

## Ⅲ-3 宿泊業

### 1 宿泊施設の供給動向と利用動向

宿泊者数、客室稼働率、定員稼働率ともに減少に転じる  
外国人宿泊者数の伸びは続くも、伸び率は縮小

#### (1) 供給動向

旅館・ホテル・簡易宿所の軒数、旅館・ホテルの客室数の推移は、表Ⅲ-3-1のとおりである。

15年度の旅館軒数は4万661軒、前年度より1,238軒減（前年度比3.0%減）、旅館客室数は70万1,656室、同8,363室減（同1.2%減）となった。ホテル軒数は9,967軒、同88軒増（同0.9%増）、

ホテル客室数は84万6,332室、同1万1,744室増（同1.4%増）となった。簡易宿所軒数は2万7,169軒、同820軒増（同3.1%増）となった。旅館は軒数・客室数ともに減少傾向が続いており、ホテルの軒数は微増、客室数は増加傾向、簡易宿所の軒数は近年5年間は2～3%の増加傾向が続いている。10年前の05年度と比較すると、旅館は1万4,906軒減で26.8%減、ホテルは977軒増で10.9%増、簡易宿所は4,773軒増で21.3%増となっている。

軒数および客室数をもとにした15年度の1軒当たり平均室数は、旅館が17.26室（前年度より0.31室増）、ホテルが84.91室（同0.43室増）となった。

表Ⅲ-3-1 旅館・ホテル・簡易宿所 軒数・客室数の推移

年度	旅館						ホテル						簡易宿所	
	軒数(軒)	伸び率(%)	客室数(室)	伸び率(%)	1軒当たり平均室数(室)	増減(室)	軒数(軒)	伸び率(%)	客室数(室)	伸び率(%)	1軒当たり平均室数(室)	増減(室)	軒数(軒)	伸び率(%)
2005	55,567	△ 4.2	850,071	△ 2.4	15.30	0.28	8,990	2.0	698,378	2.5	77.68	0.39	22,396	△ 0.4
2011	46,196	△ 1.5	761,448	△ 0.4	16.48	0.19	9,863	1.6	814,355	1.4	82.57	△ 0.16	24,506	3.3
2012	44,744	△ 3.1	740,977	△ 2.7	16.56	0.08	9,796	△ 0.7	814,984	0.1	83.20	0.63	25,071	2.3
2013	43,363	△ 3.1	735,271	△ 0.8	16.96	0.40	9,809	0.1	827,211	1.5	84.33	1.14	25,560	2.0
2014	41,899	△ 3.4	710,019	△ 3.4	16.95	△ 0.01	9,879	0.7	834,588	0.9	84.48	0.15	26,349	3.1
2015	40,661	△ 3.0	701,656	△ 1.2	17.26	0.31	9,967	0.9	846,332	1.4	84.91	0.43	27,169	3.1
2015/2005		△ 26.8		△ 17.5				10.9		21.2				21.3

資料：厚生労働省「衛生行政報告例（生活衛生関係）」をもとに（公財）日本交通公社作成

表Ⅲ-3-2 従業者数別（観光目的割合）、宿泊施設タイプ別の宿泊者数、平均泊数、稼働率（2016年）

	延べ宿泊者数(万人泊)		実宿泊者数(万人泊)		1人1回 当たり平均 泊数(泊)	対前年 増減(泊)	客室稼働率(%)		定員稼働率(%)		
	前年比(%)	前年比(%)	前年差(ポイント)	前年差(ポイント)							
総数	49,249	△ 2.3	37,366	△ 1.3	1.32	△ 0.01	59.7	△ 0.6	39.1	△ 0.6	
従業者数0～9人	7,585	△ 10.8	5,397	△ 9.6	1.41	△ 0.02	30.8	△ 2.5	17.3	△ 1.4	
	観光目的50%以上	3,698	△ 6.5	2,873	△ 4.3	1.29	△ 0.03	19.6	△ 1.5	12.5	△ 0.7
従業者数10～29人	3,880	△ 12.2	2,518	△ 12.8	1.54	0.01	44.9	△ 2.4	28.7	△ 2.4	
	観光目的50%未満	14,027	△ 1.7	10,564	△ 0.8	1.33	△ 0.01	68.1	0.3	46.7	△ 0.7
従業者数30～99人	4,395	△ 0.6	3,468	1.5	1.27	△ 0.03	52.1	1.0	30.9	△ 0.6	
	観光目的50%未満	9,622	△ 2.2	7,089	△ 2.0	1.36	△ 0.00	74.1	0.3	60.9	△ 0.5
従業者数100人以上	15,135	0.4	12,036	1.3	1.26	△ 0.01	71.5	0.5	50.6	0.0	
	観光目的50%以上	7,762	△ 1.4	6,447	△ 0.2	1.20	△ 0.01	63.3	0.7	41.5	0.0
従業者数100人以上	7,366	2.3	5,583	3.3	1.32	△ 0.01	77.3	0.1	65.6	△ 0.8	
	観光目的50%未満	12,501	△ 0.5	9,369	△ 0.1	1.33	△ 0.00	74.7	△ 0.4	56.5	△ 1.4
従業者数100人以上	8,885	△ 0.0	6,757	0.9	1.31	△ 0.01	71.7	△ 0.7	52.9	△ 1.4	
	観光目的50%未満	3,613	△ 1.2	2,609	△ 2.4	1.38	0.02	80.1	0.3	68.2	△ 0.8
タ宿泊施設別	旅館	10,270	△ 3.0	8,556	△ 1.4	1.20	△ 0.02	37.1	0.1	24.1	△ 0.3
	リゾートホテル	7,135	△ 0.6	5,558	0.9	1.28	△ 0.02	56.9	0.9	42.2	0.1
	ビジネスホテル	20,849	△ 1.3	15,447	△ 0.6	1.35	△ 0.01	74.4	0.2	62.9	△ 1.1
	シティホテル	7,680	△ 3.5	5,458	△ 3.8	1.41	0.00	78.7	△ 0.5	66.8	△ 1.5
	簡易宿所	2,474	△ 4.3	1,763	△ 0.9	1.40	△ 0.05	25.0	△ 2.1	14.6	△ 1.1
会社・団体の宿泊所	839	△ 3.5	584	△ 6.4	1.44	0.04	27.1	△ 0.6	18.1	△ 0.3	
うち外国人宿泊者数	6,939	5.8	4,509	6.8	1.54	△ 0.01					
タ宿泊施設別	旅館	778	6.7	622	13.3	1.25	△ 0.08				
	リゾートホテル	931	5.8	660	4.1	1.41	0.02				
	ビジネスホテル	2,507	9.7	1,634	10.0	1.53	△ 0.00				
	シティホテル	2,497	1.7	1,457	0.8	1.71	0.02				
	簡易宿所	203	14.0	125	28.9	1.62	△ 0.21				
会社・団体の宿泊所	23	△ 30.3	10	△ 9.1	2.30	△ 0.70					

(注) 総数には、従業者数別（観光目的割合）で見た場合、宿泊目的割合不詳を含む。宿泊施設タイプ別で見た場合、宿泊施設タイプ不詳を含む。

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

## (2) 宿泊者数

16年の延べ宿泊者数、実宿泊者数、1人1回当たり平均泊数は、表Ⅲ-3-2のとおりである。

延べ宿泊者数は4億9,249万人泊、前年比2.3%減となった。実宿泊者数は3億7,366万人泊、同1.3%減となった。いずれもデータ比較が可能である11年から15年まではプラスの伸び率が続いたが、16年に減少に転じた。延べ宿泊者数を実宿泊者数で割った1人1回当たり平均泊数は1.32泊で、前年とほぼ同じ値となった。

従業者数別に見ると、延べ宿泊者数については、「従業者数0～9人」が前年比10.8%減、「従業者数10～29人」が同1.7%減、「従業者数30～99人」が同0.4%増、「従業者数100人以上」が同0.5%減となり、従業者数10人未満の小規模施設において減少幅が大きくなった。実宿泊者数についても、「従業者数0～9人」が前年比9.6%減、「従業者数10～29人」が同0.8%減、「従業者数30～99人」が同1.3%増、「従業者数100人以上」が同0.1%減となっており、同様の傾向が見られた。1人1回当たり平均泊数は、いずれの施設規模も前年とほぼ同程度となった。

宿泊施設タイプ別に見ると、延べ宿泊者数はいずれも前年から減少しており、リゾートホテルとビジネスホテルを除いて軒並み3%以上の減少となった。実宿泊者数については、「会社・団体の宿泊所」が前年比6.4%減、「シティホテル」が同3.8%減と減少幅が大きくなった。1人1回当たり平均泊数は、いずれの施設タイプも前年とほぼ同程度となった。

外国人宿泊者数については、延べ宿泊者数が6,939万人泊で前年比5.8%増、実宿泊者数が4,509万人泊で同6.8%増となり、ここ数年続いた2桁増から伸び率は縮小した。

宿泊施設タイプ別に見ると、延べ宿泊者数・実宿泊者数ともに、全体に占める割合は小さいものの「簡易宿所」の伸びが最も大きくなっている。これに次いで延べ宿泊者数については「ビジネスホテル」、実宿泊者数については「旅館」の伸びが大きい。1人1回当たり平均泊数については、「会社・団体の宿泊所」が対前年0.70泊減、「簡易宿所」が同0.21泊減と比較的大きな減少となった。

## (3) 客室稼働率および定員稼働率

16年の客室稼働率および定員稼働率は、表Ⅲ-3-2のとおりである。

年間の客室稼働率は59.7%、前年差0.6ポイント減、定員稼働率は39.1%、同0.6ポイント減となった。

従業者数別に見ると、客室稼働率・定員稼働率ともに「従業者数100人以上」が最も高く、客室稼働率は74.7%、同0.4ポイント減、定員稼働率は56.5%、同1.4ポイント減で、施設規模が小さくなるにつれて稼働率は低くなっている。特に従業者数10人未満でかつ観光目的利用が50%以上を占める小規模施設では、いずれの稼働率も20%を切っている。

宿泊施設タイプ別に見ると、「シティホテル」と「ビジネスホテル」の稼働率が高く、客室稼働率が70%以上、定員稼働率が60%以上となっている。

## (4) 宿泊料(宿泊単価)

旅館およびホテル(主にビジネスホテル)の1人当たり基本宿泊料を、それぞれの規模・部屋タイプ別にまとめたものが表Ⅲ-3-3である。

15年の旅館の1人当たり基本宿泊料(1泊2食単価)は、小規模旅館は14,050円(前年比3.4%減)、中規模旅館は14,271円(同5.7%増)、大規模旅館は16,587円(同20.9%増)となり、大規模旅館において2桁の伸びとなった。

15年のホテルの1人当たり基本宿泊料(室料単価)は、シングルルーム7,065円(前年比13.3%増)、ツインルームは13,627円(同20.6%増)と、いずれも前年のマイナスから大幅な伸びとなった。

### ■ 四半期別の利用動向

客室稼働率、定員稼働率いずれも「7～9月期」が最高  
外国人宿泊者比率は「4～6月期」と「1～3月期」が高い

## (1) 客室稼働率

16年の客室稼働率を四半期別にまとめたものが表Ⅲ-3-4である。

最も高いのは「7～9月期」の63.8%(前年同期差1.4ポイント減)、最も低いのは「1～3月期」の56.9%(同0.1ポイント減)で、この傾向は前年と同様であった。全ての期において前年同期差がマイナスとなった。

従業者数別に見ると、最も好調な「7～9月期」は、従業者数が10人以上の施設はいずれも70%を超えた一方で、10人未満の施設は36.2%にとどまっている。この期以外においても、従業者数10人以上の施設は65%以上を維持し、稼働率が最高と最低の期のポイント差が5.4ポイント(100人以上施設)から6.9ポイント(30～99人施設)となっているが、10人未満の施設については稼働率は30%前後で、同ポイント差が8.0ポイントと、変動が比較的大きくなっている。前年同期差を見ると、最も稼働率が低い「1～3月期」に、従業者数10人未満の施設を除いて約3.0ポイントのプラスとなった一方で、それ以外の期はほぼマイナスとなった。

宿泊施設タイプ別に見ると、「シティホテル」の「7～9月期」と「10～12月期」の稼働率が80%を超え、「ビジネスホテル」も同様の期に75%以上の高い稼働率となっている。前年同期差を見ると、「1～3月期」において「簡易宿所」と「会社・団体の宿泊所」を除いた施設で1.0～4.0ポイントほどプラスになった一方で、「4～6月期」については「シティホテル」が3.4ポイント減になるなど比較的大きなマイナスとなっている。

## (2) 定員稼働率

16年の定員稼働率を四半期別にまとめたものが表Ⅲ-3-5である。

最も高いのは「7～9月期」の44.3%(前年同期差0.9ポイント減)、最も低いのは「1～3月期」の36.6%(同0.1ポイント減)で、この傾向は前年と同様であった。全ての期において前年同期差がマイナスとなった。

従業者数別に見ると、最も好調な「7～9月期」は、従業者数が10人以上の施設はいずれも50%を超えた一方で、10人未満の施設は22.8%にとどまっている。この期以外においても、従業者数10人以上の施設はおおむね45%以上を維持している。前年同期差を見ると、最も稼働率が低い「1～3月期」は従業員数99人未満の施設がプラスとなっており、従業者数が少ない施設ほどプラス幅が大きくなった。

宿泊施設タイプ別に見ると、「シティホテル」の「7～9月期」の稼働率が70%を超え、それ以外の期もほぼ65%程度となっている。「ビジネスホテル」も「7～9月期」に65%を超え、それ以外の期もほぼ60%程度となっている。前年同期差を見ると、「シティホテル」が「1～3月期」以外の期において約2.0ポイントのマイナスとなっている。

表Ⅲ-3-3 宿泊施設タイプ別の1人当たり基本宿泊料(旅館：1泊2食/ホテル：室料)

(単位：円、%)

年度	旅館						ホテル(主にビジネスホテル)				
	小旅館		中旅館		大旅館		シングルルーム		ツインルーム		
	単価	前年比	単価	前年比	単価	前年比	単価	前年比	単価	前年比	
2011	14,772	△ 5.4	13,209	△ 5.8	12,153	△ 9.1	5,896	△ 5.4	10,727	△ 3.7	
2012	13,314	△ 9.9	13,084	△ 0.9	12,982	6.8	6,014	2.0	10,832	1.0	
2013	17,789	33.6	13,155	0.5	13,317	2.6	6,558	9.0	11,936	10.2	
2014	14,549	△ 18.2	13,496	2.6	13,720	3.0	6,233	△ 5.0	11,302	△ 5.3	
2015	14,050	△ 3.4	14,271	5.7	16,587	20.9	7,065	13.3	13,627	20.6	

(注) 小旅館は客室数30室以下、  
中旅館は30室以上99室以下、  
大旅館は100室以上。

資料：(一社)日本旅館協会「営業状況等統計調査」、※2011年度までは(一社)国際観光旅館連盟「国際観光旅館営業状況等統計調査」  
(一社)全日本シティホテル連盟「客室料金調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

表Ⅲ-3-4 2016年四半期別客室稼働率

		年計		1～3月期		4～6月期		7～9月期		10～12月期	
		客室稼働率(%)	前年差(ポイント)	客室稼働率(%)	前年同期差(ポイント)	客室稼働率(%)	前年同期差(ポイント)	客室稼働率(%)	前年同期差(ポイント)	客室稼働率(%)	前年同期差(ポイント)
全体		59.7	△ 0.6	56.9	△ 0.1	57.5	△ 0.8	63.8	△ 1.4	60.3	△ 0.4
従業者数別	0～9人	30.8	△ 2.5	28.2	△ 1.6	28.6	△ 2.4	36.2	△ 3.0	30.3	△ 2.6
	10～29人	68.1	0.3	65.5	2.9	66.2	△ 1.3	71.9	△ 0.9	68.8	0.6
	30～99人	71.5	0.5	68.4	2.9	69.3	△ 1.4	75.3	△ 0.2	72.8	0.7
	100人以上	74.7	△ 0.4	72.9	3.0	72.2	△ 3.1	77.6	△ 1.2	76.0	△ 0.4
宿泊施設タイプ別	旅館	37.1	0.1	34.7	1.1	34.0	△ 0.8	41.7	△ 0.7	38.0	0.7
	リゾートホテル	56.9	0.9	55.6	3.9	52.0	△ 1.6	63.6	△ 0.1	56.0	0.7
	ビジネスホテル	74.4	0.2	71.9	2.3	72.8	△ 1.3	77.3	△ 0.6	75.7	0.6
	シティホテル	78.7	△ 0.5	76.0	2.7	77.7	△ 3.4	81.2	△ 1.0	80.0	△ 0.4
	簡易宿所	25.0	△ 2.1	20.4	△ 2.3	23.4	△ 3.1	32.5	△ 2.1	23.7	△ 0.6
	会社・団体の宿泊所	27.1	△ 0.6	22.0	△ 0.9	27.5	0.3	33.0	△ 2.1	25.4	△ 0.2

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

表Ⅲ-3-5 2016年四半期別定員稼働率

		年計		1～3月期		4～6月期		7～9月期		10～12月期	
		定員稼働率(%)	前年差(ポイント)	定員稼働率(%)	前年同期差(ポイント)	定員稼働率(%)	前年同期差(ポイント)	定員稼働率(%)	前年同期差(ポイント)	定員稼働率(%)	前年同期差(ポイント)
全体		39.1	△ 0.6	36.6	△ 0.1	36.9	△ 0.7	44.3	△ 0.9	38.6	△ 0.7
従業者数別	0～9人	17.3	△ 1.4	19.4	3.1	15.4	△ 0.7	22.8	△ 1.9	15.9	△ 1.7
	10～29人	46.7	△ 0.7	45.9	2.6	44.8	△ 0.9	52.3	△ 0.9	45.8	△ 1.4
	30～99人	50.6	0.0	47.7	0.9	48.1	△ 0.3	55.4	△ 0.5	51.1	0.1
	100人以上	56.5	△ 1.4	55.0	△ 0.2	53.4	△ 2.1	60.8	△ 2.1	56.7	△ 1.2
宿泊施設タイプ別	旅館	24.1	△ 0.3	22.3	0.2	21.6	△ 0.1	28.1	△ 0.8	24.2	△ 0.4
	リゾートホテル	42.2	0.1	41.3	1.1	36.7	△ 1.1	49.8	△ 0.5	40.3	0.2
	ビジネスホテル	62.9	△ 1.1	60.2	△ 0.4	61.1	△ 1.2	67.2	△ 1.3	63.1	△ 1.5
	シティホテル	66.8	△ 1.5	64.2	0.0	65.9	△ 2.0	70.4	△ 2.1	66.6	△ 2.0
	簡易宿所	14.6	△ 1.1	10.4	△ 1.3	13.3	△ 1.0	22.5	△ 1.2	12.0	△ 0.5
	会社・団体の宿泊所	18.1	△ 0.3	14.0	△ 1.4	18.6	0.7	24.0	△ 0.5	15.5	△ 0.2

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

表Ⅲ-3-6 2016年四半期別外国人宿泊者数比率(延べ宿泊者数)

		年計		1～3月期		4～6月期		7～9月期		10～12月期	
		外国人比率(%)	前年差(ポイント)	外国人比率(%)	前年同期差(ポイント)	外国人比率(%)	前年同期差(ポイント)	外国人比率(%)	前年同期差(ポイント)	外国人比率(%)	前年同期差(ポイント)
全体		14.1	1.1	15.1	3.0	15.6	1.0	12.5	0.5	13.6	0.1
宿泊施設タイプ別	旅館	7.6	0.7	9.1	2.2	8.5	0.9	5.8	△ 0.1	7.4	△ 0.0
	リゾートホテル	13.0	0.8	15.8	3.9	15.0	△ 0.0	9.8	△ 0.0	12.6	△ 0.4
	ビジネスホテル	12.0	1.2	11.9	2.5	12.8	1.1	11.9	1.0	11.5	0.4
	シティホテル	32.5	1.7	33.0	4.5	35.2	1.8	30.9	0.7	31.1	0.1
	簡易宿所	8.2	1.3	10.7	4.1	9.8	2.1	6.4	0.4	7.9	△ 0.1
	会社・団体の宿泊所	2.7	△ 1.1	2.5	△ 0.2	2.5	△ 0.7	3.0	△ 1.3	2.8	△ 1.8

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

### (3) 外国人宿泊者比率

16年の外国人宿泊者比率を四半期別にまとめたものが表Ⅲ-3-6である。

最も高いのは「4～6月期」の15.6%（前年同期差1.0ポイント増）、次いでほぼ同率で「1～3月期」の15.1%（同3.0ポイント増）となった。全ての期において前年同期差がプラスとなったが、「1～3月期」を除いてそのプラス幅は縮小した。

宿泊施設タイプ別に見ると、最も割合が高い「シティホテル」が、全ての期において30%を超えている。「リゾートホテル」は「1～3月期」を除いて微減となり、「会社・団体の宿泊所」は全ての期においてマイナスとなった。その一方で、「簡易宿所」における外国人比率が比較的高まった。

#### Ⅲ 2016年の話題

民泊サービスの適正化に向けて法整備の検討が進展  
外国人宿泊者の需要やニーズを念頭においた新規開業や改装、  
新サービスの提供といった対応がみられた

#### (1) 民泊をめぐる国・業界の動き

厚生労働省は、16年4月に旅館業法を改正し、民泊の規制緩和を実施、同年6月に『「民泊サービス」のあり方に関する検討会』の最終報告書を取りまとめ、観光庁においても同年4月にイベント民泊ガイドラインを公表するなど、民泊サービスの適切な提供のあり方について検討してきた。17年3月、「住宅宿泊事業法案」が閣議決定、国会に提出され、17年度中にも成立の見通しとなっている。

民泊サービスが生まれた背景としては、外国人旅行者の急増による、特に都市部での宿泊施設の不足や、地域住民との交流など多様な宿泊施設へのニーズ等が挙げられるが、その一方で、無許可で営まれる違法民泊の存在や旅行者のモラルの欠如等により、地域住民の生活環境の悪化や近隣住民とのトラブルも発生している。

また、旅館経営の圧迫につながりかねない、民泊事業者により有利な競争環境についても、宿泊業界は問題視しており、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会では、国内外の民泊サービスの事例調査や対応策の検討、国への陳情等行ってきた。「住宅宿泊事業法案」では、民泊サービスの提供日数の上限が年間180日（泊）とされ、都道府県の条例でさらに日数制限も可能となることから、業界としては今後、地元自治体に対する宿泊施設の現状についてさらなる理解を促し、共同歩調を取っていくとしている。

#### (2) 高級路線の宿泊施設が各地に開業

16年7月、東京・大手町に「星のや東京」がオープンした。都心の地下2階、地上17階のビルの中に温泉を引き、日本の伝統的な設えの中で日本旅館らしいサービスを提供することで、都会にありながら、首都東京を訪れる外国人が伝統的な日本文化を体感できる施設となることを目指している。

依然として旺盛な外国人の宿泊需要に対応するために、東京

など都市部のみならず地方部においても、より高品質な宿泊施設の開業がみられた（表Ⅲ-3-7）。

世界的なスキーリゾートに成長した北海道・ニセコには、16年12月にコンドミニウムホテル「AYA NISEKO（綾ニセコ）」が開業した（79ユニット）。自然と和のテイストを基調とした、長期滞在に適した宿泊施設に加え、天然温泉や飲食施設、フィットネスジムなど多様な施設を持ち、スキースクール等のスキー関連のサービスを提供することで、外国人富裕者層のニーズに応える。ニセコでは今後も、パーク ハイアットやリッツ・カールトンといった外資系高級宿泊施設の開業が相次ぐ予定である。

#### (3) 供給と商品コンセプトの両面からのインバウンド対応

増大する外国人旅行者の宿泊需要への対応としては、供給面では、開業が比較的容易な hostel やカプセルホテルといった簡易宿所が注目されており（「旅行年報2016」Ⅲ-3 宿泊業を参照）、16年も既存のホテル運営会社が運営に乗り出したり、異業種（コンビニチェーン、USEN など）やベンチャー企業の参入がみられた。

外国人にとっての宿泊施設の魅力の創出という観点からは、長野県白馬村の「五龍館」が、冬期の外国人宿泊客の受入れにあたって泊食分離を推進している。外国人には、食事は宿泊施設の外で楽しみたいというニーズがあるが、白馬八方尾根地区には飲食施設が非常に不足していることから、それまで一体であったホテルとレストランを分離・リニューアル、15/16年のスキーシーズンから本格的な和食を提供するレストランを併設し、宿泊施設としての魅力を高めている。

「ハイアット リージェンシー 京都」は、京都市内の5寺や日本財団等とともに、滞在型の日本文化体験プログラム「いろはにほん」に参画している（16年5月から）。ハイアットでの宿泊客を対象に催行されるもので、リノベーションした歴史的な寺院等での宿泊を含めて座禅や読経、茶の湯の礼法を1泊2日で体験し、禅の精神や日本文化を学ぶ。

#### (4) 金融機関やファンドを活用した魅力創出への取組み

宿泊先として外国人旅行者に人気の宿坊を、日本文化を体験できる場としてより魅力あるものにするために、不動産ファンドを組成する燦キャピタルマネージメント株式会社は一般社団法人全国寺社観光協会等と組んでファンドを立ち上げ、ともに宿坊創生プロジェクトを推進している（16年8月）。その宿坊文化体験施設として初の宿坊「和空下寺町（わくうしたでらまち）」が17年4月、大阪市内に開業した。

本プロジェクトは、宿坊の魅力を高め、情報発信を行うことで、都市部や一部の観光地に集中している外国人旅行者を地方部へ誘致することも目的とする。また、宿坊はホテルや旅館に比べて質素で建設や運営にかかる費用が安いと、ファンドで投資を呼び込み、外国人向けの宿泊施設として速やかに供給することで、2020年東京オリンピック・パラリンピック時の宿泊施設不足に対応するとしている。

## (5) 宿泊施設従業員の確保・定着・育成に向けた取組み

宿泊施設の従業員は、特殊な勤務時間や労働環境、季節変動等の要因から、雇用者の確保や優秀な人材の定着、長期的な観点での育成が容易ではない。加えて、国内人口の減少に伴う若年層の労働力の減少や外国人旅行者の増加による宿泊需要の増大が、宿泊施設における人材の確保と育成の問題に拍車を掛けている。

草津温泉（群馬県）では、草津温泉観光協会DMOの取り組みとして人材育成部会を立ち上げ、旅館の若手経営者を中心

に、従業員の雇用をめぐる現状・課題の把握や対応策の検討を行っている。16年度は、主に町内の旅館協同組合に加盟する宿泊施設の従業員と経営者を対象に、現在の労働環境や雇用問題についての認識、今後の意向等に関するアンケート調査を実施し、データに基づく現状把握を行った。今後は従業員の確保・定着・育成に関する課題解決に向けて、より具体的な検討を行うとしている。

（岩崎比奈子）

表Ⅲ-3-7 2016年に新たにオープンした主な高級旅館・ホテル

所在地	施設名	開業年月	概要
愛知県名古屋市	ストリングスホテル名古屋	2016年1月	「その街に集うすべての人にご満足いただける、その街のライフスタイルホテル」をコンセプトに、ビジネスホテル・シティホテル・リゾートホテルなど既存のホテルカテゴリーから進化した「Special Class Hotel」という新しいカテゴリーを提供。
京都市中京区	京都 茶の宿 七十七 (なずな)	2016年2月	全室露天風呂完備。館内で使用している家具は購入可能。「建仁寺僧侶が案内する早朝特別拝観ツアー」(27,000円/人)、「着物 de 京都の街を散策しませんか？」(3,500円～8,000円/人)などのアクティビティを提供。
東京都千代田区	オークウッドプレミア東京	2016年2月	サービスアパートメントの世界最高級ブランド「オークウッド」が手がける。東京の中心にありながら、自宅感覚で滞在できる点を強みとする。
大分県別府市	GAHAMA terrace (ガハマ テラス)	2016年4月	GAHAMA terrace のテーマはハーモニー。別府の華やかな別荘文化を象徴する、昭和2年建築の国武別荘という歴史ある建物とモダンな現代建築、自然とアートな空間が織りなすハーモニーを大切にしたい、17の離れ客室を有するリゾートホテル。
静岡県伊東市	ホテル ふたり木もれ陽	2016年6月	都心から最短60分。全室オーシャンビュー、掛け流し露天風呂付き。
東京都千代田区	星のや東京	2016年7月	東京都心の地下2階、地上17階のビルの中に、地下1,500メートルから温泉が引かれ、伝統的な建築様式に現代的なデザインを組み合わせた客室や日本旅館ならではのサービスを提供。
神奈川県箱根町	箱根強羅 白檀	2016年7月	箱根強羅の山間約3,700坪の落葉樹の雑木林に建つ。源泉掛け流しの露天風呂を持つ全16室の旅館。
長野県諏訪市	寛ぎの諏訪の湯宿。 萃sui-諏訪湖	2016年7月	客室は、諏訪湖を一望する露天風呂付きの全8室。囲炉裏茶の間には地酒Barがある。
長野県北佐久郡	軽井沢マリオットホテル	2016年7月	中軽井沢エリアに、日本で5番目のマリオットブランドとしてオープン。
長野県北佐久郡	ルグラン軽井沢	2016年7月	旧軽井沢唯一の天然温泉露天風呂を有する(岩手県花巻南温泉峡より直送)。
北海道亀田郡	大沼鶴雅オーベルジュ エブイ	2016年8月	ハーブと美しい花のガーデンに囲まれたオーベルジュ。「大沼50マイル スローフード」をコンセプトに、大沼を中心に半径50マイル(約80km) 圏内の食材にこだわった創作料理を提供。
熊本県阿蘇郡	黒川温泉御処 月光樹	2016年10月	4,000坪の敷地に客室は8棟。自然の樹々に囲まれ、それぞれに独立した造り。開放感に溢れた源泉掛け流しの露天風呂を有する。
神奈川県箱根町	天翠茶寮	2016年11月	「日本の美と遊ぶ宿」をコンセプトに、「景観の美」「天然木の美」「和食の美」「伝統の美」「おもてなしの美」にこだわる。
北海道倶知安町	AYA NISEKO (綾 ニセコ)	2016年12月	自然と和のテイストを基調とした、長期滞在に適した宿泊施設に加え、天然温泉や飲食施設、フィットネスジムなど多様な施設や、スキースクール等のスキー関連のサービスを提供するコンドミニウムホテル。
静岡県伊豆市	ふたりとわに 縁	2017年1月	駿河湾越しに富士山を一望する立地。全10棟の離れ客室すべてに専用露天風呂付きテラスを有する。

出典：新聞・雑誌記事などをもとに(公財)日本交通公社作成